

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

＜県南会場＞

科目 ⑫学校・地域との連携

- ◆ 放課後児童クラブにとって学校、地域、保育園、幼稚園、保護者との連携の大切さを改めて感じた。自分のクラブは保育園内にあり、卒園児がそのまま学童を利用するため、一人ひとりを理解しており、スムーズに活動や生活ができている。小学校とも一園一小で交流があり、学童の子どもたちのことを話し合う機会もあるので、連携よく進められていると思った。これからも地域、学校、保護者と連携を図りながら児童を共に守っていきたい。
- ◆ 本講義では、子どもたちの健全な成長を推進するために地域、学校、家庭と保護者、児童クラブの連携のあり方について具体的に学ぶことができた。特に、学校、学童、家庭という子どもの生活の連続性を保証するために情報交換や情報共有により、学校や保護者との連携を積極的に図る必要性を再認識した。自分だけの目ではなく、複数の目の一人として共に育てることなど、連携することのメリットを心に留めて今後に生かしたい。
- ◆ 児童クラブの運営には学校、地域などと連携する必要性があり、そのあり方などを具体的に学ぶことができた。しっかりと連携することによって、子どもと保護者が安心感を得られること、子どもの変化を見逃さない関係作りができるここと、子どもを共に育て守ることにつながることがよく分かった。支援員は子どもを幸せにするための仕事であり、社会的責任が伴うことを自覚することができた。
- ◆ 保護者、学校、地域との連携の必要性については研修を受けて重要であることを学びました。しかし現実では、あまり学校との連携が充実していないのが実情です。情報交換の場を設けたり、情報共有したりして子どもの育ちに関わり、安心安全な保育をしていくことが放課後児童支援の大きな課題だと思います。また保護者支援も大切な責務なので信頼関係を築きながら保護者が安心して放課後児童クラブを利用できるように努めていきたいと思います。
- ◆ 保育所や学校、地域とつながりを共有していくことで、地域全体で子どもたちの学びや成長を一緒に支えていくことの大切さを知ることができました。また支援員はその得た情報に基づいた共通の意識をもって対応し、地域住民や関係機関等と協力して、複数の目で共に育て、安全を確保する取り組みも重要だと思いました。グループワークでは、他の児童クラブで働く方々と情報交換することができ、大変参考になりました。